

2019年度 年次報告書



和歌山大学

国際観光学研究センター

CENTER
FOR
TOURISM
RESEARCH

Contents	1	国際観光学研究センター(CTR)について……………	2
	1.1.	ミッション……………	2
	1.2.	機能と国際的側面……………	2
	1.3.	運営体制……………	2
	1.3.1.	組織図……………	2
	1.3.2.	意思決定機関……………	3
	1.3.3.	CTR研究員……………	4
	1.3.4.	CTR研究ユニット……………	9
	1.4.	活動内容……………	12
	1.4.1.	研究活動……………	12
	1.4.2.	研究・教育サポート……………	12
	1.4.3.	広報、アウトリーチ、アドボカシー……………	14
	2	活動報告……………	15
	2.1.	研究活動……………	15
	2.1.1.	主な出版業績一覧……………	15
	2.1.2.	登録研究プロジェクト一覧……………	20
	2.1.3.	短期研究員招へい制度……………	22
	2.1.4.	「CTR研究集会」開催……………	23
	2.1.5.	書籍出版プロジェクト……………	24
	2.2.	研究・教育サポート……………	24
	2.2.1.	研究相談会開催……………	24
	2.2.2.	イベント開催支援……………	24
	2.2.3.	観光学部授業科目の開講支援……………	25
	2.2.4.	特別主幹教授の教育活動への参加……………	25
	2.2.5.	外部機関連携活動の支援・促進……………	27
	2.2.6.	UNWTO, TedQual認証取得支援……………	29
	2.2.7.	学内FD・SD活動支援……………	30
	2.3.	広報、アウトリーチ、アドボカシー……………	31
	2.3.1.	学会スポンサー参加……………	31
	2.3.2.	ニュースレター発行……………	31
	2.3.3.	外部機関との連携促進……………	32
	2.3.4.	学会、イベント参加等……………	34
	2.3.5.	セミナー等の企画・運営……………	36

1 国際観光学研究センター(CTR)について

1.1. ミッション

観光学研究の高度化を通じて、健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

1.2. 機能と国際的側面

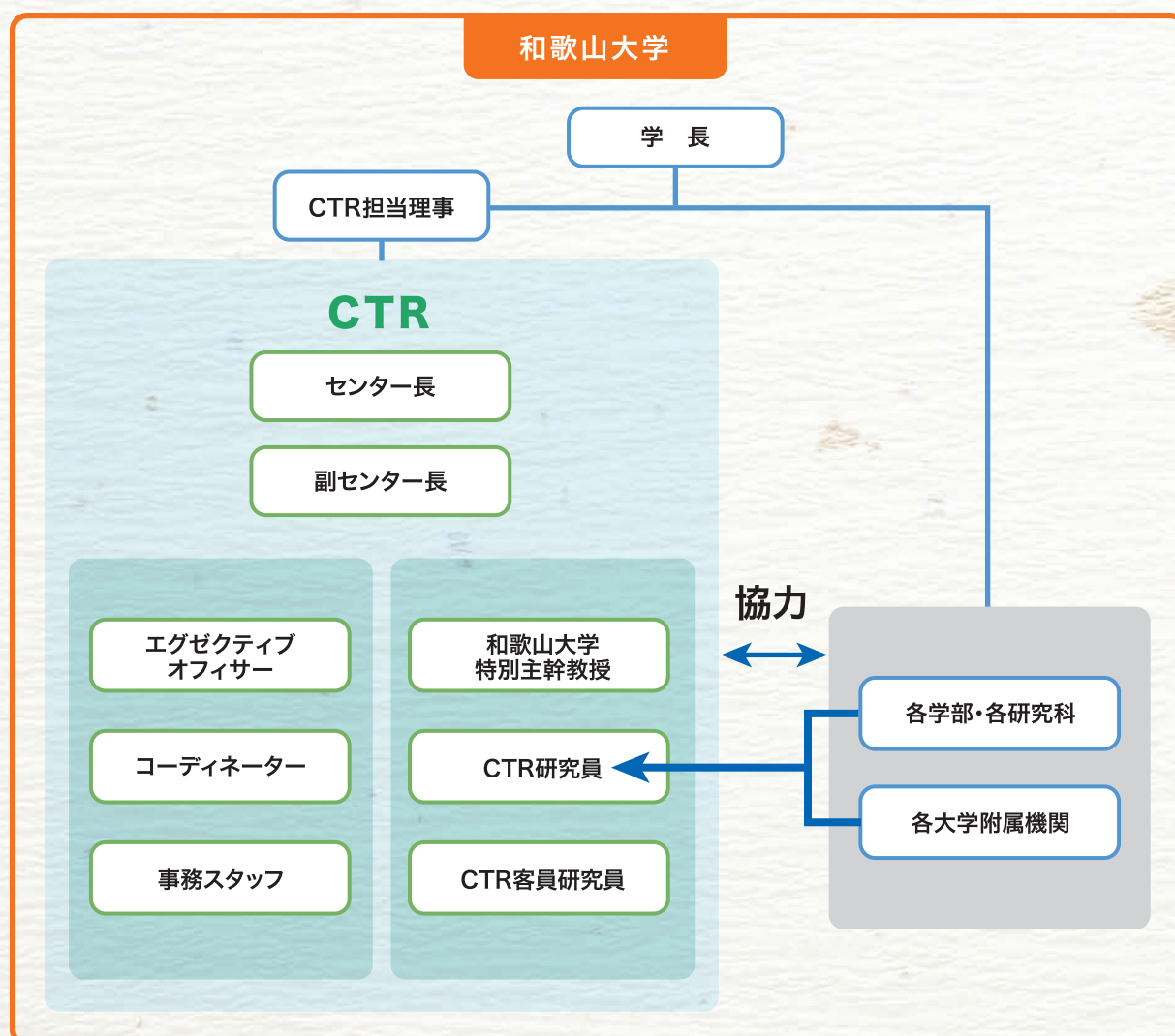
- 日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- 国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

1.3. 運営体制

1.3.1. 組織図

国際観光学研究センター(CTR)機構

2020年3月現在



運営管理組織



1.3.2. 意思決定機関

運営協議会	毎年の業績報告を回覧し意見聴取。重要事項について適宜意見聴取。
常任運営委員会	日常的な意思決定及び、教員評価・機関評価、テニュアトラック管理・評価。
観光研究委員会	研究活動の戦略的企画・促進及び、研究活動全般に関する進捗管理機能確立準備。
推進協議会	各学部長等を交え全学組織として、業務推進にあたる重要事項協議。
ユニット会議	研究組織の基本フレーム。必要に応じて会議を開催し独自活動を展開。
実務担当者会議	実務担当者の業務確認・業務分担等の認識共有。

1.3.3. CTR研究員

CTR研究員 (計43名)	和歌山大学特別主幹教授	4名
	CTR専任研究員	2名
	CTR併任研究員	観光学部25名、学内他学部等12名
CTR客員研究員 (計34名)	CTR特別主幹研究員	2名
	CTR客員特別研究員	28名
	CTR客員一般研究員	4名

研究員一覧

1.3.3.1. CTR研究員

(2020年3月現在)

<和歌山大学特別主幹教授>

HINCH, Thomas	和歌山大学 特別主幹教授、Professor Emeritus, University of Alberta (Canada)
MILLER, Graham	和歌山大学 特別主幹教授、国際観光学研究センター 副センター長、Professor, University of Surrey (UK)
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, The University of Queensland (Australia)
SHARPLEY, Richard	和歌山大学 特別主幹教授、国際観光学研究センター 副センター長、Professor, University of Central Lancashire (UK)

<CTR専任研究員>

CHEER, Joseph M.	国際観光学研究センター 特任教授
PROGANÓ, Ricardo Nicolás	国際観光学研究センター 特任講師

<CTR併任研究員>

CHAKRABORTY, Abhik	観光学部 講師
DOERING, Adam	観光学部 准教授
秋山 演亮	クロスカル教育機構(教養・協働教育部門) 教授
足立 基浩	経済学部 教授
井伊 博行	システム工学部 教授
伊藤 央二	国際観光学研究センター 副センター長、観光学部 准教授
植田 淳子	食農総合研究所 特任助教
大井 達雄	観光学部 教授
大浦 由美	食農総合研究所 所長、観光学部 教授
大橋 直義	教育学部 准教授
尾久土 正己	観光学部 教授
小野 健吉	観光学部 教授
海津 一郎	教育学部 教授
加藤 久美	国際観光学研究センター センター長、観光学部 教授
木川 剛志	観光学部 准教授
岸上 光克	地域活性化総合センター 食農総合研究所 教授
北村 元成	観光学部 教授
佐々木 壮太郎	観光学部 教授
佐野 楓	観光学部 准教授
澤田 知樹	観光学部 准教授
竹田 明弘	観光学部 准教授
竹林 明	観光学部 教授
竹林 浩志	観光学部 准教授
辻 和良	食農総合研究所 特任教授

辻本 勝久	経済学部 教授
出口 竜也	観光学部 教授
富田 晃彦	教育学部 教授
永井 隼人	観光学部 講師
中串 孝志	観光学部 准教授
永瀬 節治	観光学部 准教授
東 悦子	観光学部 教授
彦次 佳	教育学部 准教授
藤田 武弘	観光学部 教授
堀田 祐三子	観光学部 教授
八島 雄士	観光学部 教授
吉田 道代	観光学部 教授
吉野 孝	システム工学部 教授

1.3.3.2. CTR客員研究員

<特別主幹研究員>

敬称略(2020年3月現在)

特別主幹研究員は、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有する研究員をいう。

大橋 昭一	和歌山大学 名誉教授
山田 良治	和歌山大学 名誉教授、大阪観光大学 教授(学長代行)

<CTR客員特別研究員>

敬称略(2019年10月現在)

CTR客員特別研究員は、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するものとする。

今井 ひろこ	コムサポートオフィス 代表
大貫 美鈴	スペースアクセス株式会社 代表取締役 宇宙ビジネスコンサルタント
小形 正嗣	関西テレビ放送株式会社
小川 勝久	キヤノン株式会社 デバイス開発本部 主席
小野 綾子	女子美術大学 助手(助教)
神田 孝治	立命館大学 文学部 教授
金 宰煜	広島大学大学院 社会科学研究科マネジメント専攻 講師
権 純珍	倉敷芸術科学大学 危機管理学部 教授
黒田 有彩	株式会社アンタレス 代表取締役
河野 慎太郎	Assistant Professor, Faculty of Kinesiology Sport, and Recreation, University of Alberta(Canada)
斎藤 望	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 博士課程在籍
笹森 琴絵	JWDC (Japan Whale and Dolphin Watching Council) 代表、さかまた組 代表、ネーチャーガイド、写真家、酪農学園大学 客員研究員
杉山 幹夫	株式会社サン広告社 シニアプロデューサー
須藤 カンジ	株式会社ピクス 監督
蘇 哲仁	Full Professor, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management, Fu Jen Catholic University(Taiwan)
田中 光敏	大阪芸術大学 映像学科 教授、映画監督、CMディレクター、クリエイターズユニオン 代表取締役
陳 意玲	国立東華大学 観光暨休閒遊憩學系 助理教授(Taiwan)
中村 仁	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授

西尾 建	山口大学 経済学部 准教授
堀込 孝二	大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 講師、特定非営利活動法人スポーツファンデーション 代表理事
牧野 恵美	広島大学 産学・地域連携推進部 アントレプレナー教育部 門長、准教授
宮口 直人	株式会社ビズユナイテッド 代表取締役
森 清顕	清水寺 執事補
山口 志郎	流通科学大学 人間社会学部 准教授、和歌山大学大学院 観光学研究科 博士後期課程
山崎 直子	元JAXA宇宙飛行士、宇宙政策委員会委員(内閣府)
吉住 千亜紀	飯田市美術博物館
吉田 潔	M&R 地域マーケティング研究所 代表取締役
李 只香	九州共立大学 経済学部 教授

<CTR客員一般研究員>

敬称略(2019年10月現在)

CTR客員一般研究員は、原則として、国内外の博士後期課程学生もしくは博士後期課程を修了後引き続き研究を行うものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するものとする。博士後期課程学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

COMERIO Niccolò	School of Economics and Management, LIUC – Carlo Cattaneo University (Italy)
明山 文代	和歌山大学 観光学研究科 修士課程修了、元中学校教員
金 兌娟	大阪大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程
曹 禎敏	和歌山大学 観光学研究科 博士後期課程単位取得退学

1.3.4. CTR研究ユニット

CTRでは、10の研究ユニットを組織し、共同研究や研究会等の活動を推進できる環境を整備している。各ユニットは、研究プロジェクト及び当該専門領域を研究課題とする個人から構成されるオープンな研究集合体である。全体の枠組みとしては以下のように区分している。

- Key Research Units: 観光学研究の主要な柱となるユニット
- Strategic Research Units: CTRが課題と考える領域のユニット
- Cooperative Research Units: 外部機関との密な連携を活動の中心に据えるユニット

CTR研究員はいずれかのユニットに属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。

※客員研究員はユニットへの所属は必須ではない。

Key Research Units

Tourism & Sustainability

概要	サステナビリティは、その影響力及び要請が高まっている観光において優先的課題と見做されている。本ユニットでは、観光におけるサステナビリティの環境、社会文化、経済、マネジメントの側面をクリティカルに分析し、学術的及び社会的貢献をめざす。
リーダー	Graham Miller
サブリーダー	Adam Doering
メンバー	Abhik Chakraborty、Joseph M. Cheer、Nicolás Ricardo Proganò、足立 基浩、井伊 博行、大浦 由美、加藤 久美、斎藤 望、笹森 琴絵、藤田 武弘

Tourism & Development

概要	政策、プランニング、ガバナンス、マネジメントなど観光開発に関する広範にわたる諸課題について、都市と農村、過去と現在及び多様な地理的範囲や社会、文化、経済的発展の様々な局面において調査・研究を行う。
リーダー	Richard Sharpley
サブリーダー	堀田 祐三子
メンバー	Joseph M. Cheer、足立 基浩、井伊 博行、大浦 由美、加藤 久美

Tourism & Culture, Heritage

概要	文化遺産のマネジメント、保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブ・ツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れつつ研究する。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
リーダー	Abhik Chakraborty
サブリーダー	吉田 道代
メンバー	Joseph M. Cheer、Nicolás Ricardo Proganò、大橋 直義、小野 健吉、海津 一朗、加藤 久美、神田 孝治、澤田 知樹、永瀬 節治、東 悦子

Tourism Management

概要	観光目的地や観光ホスピタリティ産業を支援する新たな知識や知見の創造及び普及は、より効果的、効率的な意思決定を実現する。知識及び知見は、競争優位を創出するための政策立案及び計画や戦略の策定に資するものである。本ユニットの研究課題としては、リスク・マネジメントや戦略的プランニング及びマネジメント、政策、マーケティング、経済、イノベーション、成果測定手法等が想定される。
リーダー	Brent W. Ritchie
サブリーダー	佐野 楓、永井 隼人
メンバー	Joseph M. Cheer、Niccolò Comerio、足立 基浩、大井 達雄、杉山 幹夫、竹田 明弘、竹林 浩志、出口 竜也、八島 雄士、吉田 潔、吉野 孝

Strategic Research Units

Tourism & Sports

概要	ツーリズムに関連した余暇・レジャー及びスポーツの理論構築やそれらの諸活動や行動に関する実用的意義を研究対象とする。特に、今日におけるスポーツや余暇・レジャーの社会、文化、地域に関する意義について研究する。間もなく開催予定のラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021といった大型イベントに関連するスポーツツーリズムやイベント・マネジメントについて調査・研究していく。
リーダー	Thomas Hinch
サブリーダー	伊藤 央二
メンバー	Adam Doering、河野 慎太郎、竹林 明、彦治 佳、八島 雄士、山口 志郎

Tourism & Digital Media, Information

概要	IT、デジタルメディア及び新領域のビッグデータの利活用を優先的課題とし、観光統計によるトレンド、インパクト、動向分析やその応用に活用する。観光学部ドームシアター設備を活かした特徴あるコンテンツ開発も含む。
リーダー	木川 剛志
サブリーダー	吉野 孝
メンバー	Joseph M. Cheer、大井 達雄、小形 正嗣、小川 勝久、尾久土 正己、北村 元成、須藤 カンジ、田中 光敏、中串 孝志、吉住 千亜紀

Tourism & Space, Mobility

概要	観光の基盤的理念としての空間、モビリティ研究に取り組む。「宇宙空間と観光」などの学際的分野にも取り組む。
リーダー	中串 孝志
サブリーダー	尾久土 正己
メンバー	秋山 演亮、大貫 美鈴、小野 綾子、黒田 有彩、辻本 勝久、富田 晃彦、永瀬 節治、山崎 直子

Cooperative Research Units

Tourism Education

概要	教育の理念及び方法論、内容、カリキュラムデザインなど今日求められる高等観光教育の充実を図るべく、学際的視点からの研究促進を目的に、学部専任教員それぞれが多様な研究テーマでの競争的資金の獲得を実現している。とりわけ科学研究費補助金については、平成28年度、29年度に公開された研究分野別取得実績(観光学)において、全国第一位の実績を誇っている。区分変更によりランキング公表のなかった平成30年度も同様の実績水準を維持している。
リーダー	尾久土 正己
サブリーダー	佐々木 壮太郎
メンバー	伊藤 央二、大井 達雄、大浦 由美、大橋 昭一、小野 健吉、海津 一郎、木川 剛志、北村 元成、佐野 楓、竹林 明、竹林 浩志、陳 意玲、辻本 勝久、出口 竜也、永井 隼人、中串 孝志、東 悦子、藤田 武弘、堀田 祐三子、八島 雄士、山田 良治

Tourism & Food, Agriculture

概要	持続可能な開発や保全などの先進的な視点から、地域の食と経済、食の安全、農業景観と経済などを探求する。また、本学「食農総合研究所」との連携により、和歌山地域をはじめ、日本全国の課題を対象として取り組む。
リーダー	岸上 光克
サブリーダー	植田 淳子
メンバー	大浦 由美、辻 和良、藤田 武弘

Tourism & DMO

概要	観光目的地のマネジメント、サービス・ホスピタリティの向上及び経済的発展を推進する日本版DMOの普及促進について、主に産官学連携を重視して取り組む。多様な形態でのインバウンド観光の急増に伴う各地域に対する需要の増大は、人材育成の必要性と併せ、喫緊の課題である。
リーダー	八島 雄士
サブリーダー	竹林 明
メンバー	Adam Doering、木川 剛志、岸上 光克、金 宰煜、権 純珍、蘇 哲仁、出口 竜也、永井 隼人、中村 仁、西尾 建、藤田 武弘、堀込 孝二、牧野 恵美、宮口 直人、森 清顕、吉田 道代、李 只香

1.4. 活動内容

1.4.1. 研究活動

- 研究ユニットの活動:10ユニット
- 登録研究プロジェクト:29件
 - ◆ 科学研究費助成事業採択研究課題:14件
 - ◆ CTR助成研究プロジェクト:6件
 - ◆ CTR客員研究員研究プロジェクト:9件
- 短期研究員招へい制度:2名受け入れ
- 「2019年度 CTR研究集会」開催
- 書籍出版企画

1.4.2. 研究・教育サポート

●研究プロジェクト助成

- ◆CTR研究員向け研究支援プロジェクト:6件

●研究環境整備

- ◆CTR所有図書の出借・管理
- ◆主要図書(電子ジャーナル含む)整備
- ◆分析ソフトウェア(IBM SPSS、SPSS Amos)貸出開始
- ◆研究成果公開促進インセンティブ制度拡充
- ◆研究関連情報提供

●研究相談会開催

●イベント開催支援

- ◆「The 2nd International Conference of Critical Tourism Studies - Asia Pacific」
- ◆「第2回 日本国際観光映像祭」

●観光学部授業科目の開講支援

- ◆特別主幹教授・CTR専任スタッフによる授業科目開講支援:8科目

●特別主幹教授による教育活動支援

- ◆観光学部「Tea Time for GP」及び「Tourism Café」参加
- ◆観光学部宿泊研修参加

●外部機関との連携活動支援

- ◆国連世界観光機関 (UNWTO)学生ボランティアグループの活動支援
- ◆「ASEAN+3ツーリズムユースサミット2019」参加支援
- ◆「JICA海外協力隊説明会」開催支援
- ◆一般財団法人関西観光本部の研究活動支援

●国内研究教育機関との連携拡充

- ◆武蔵野大学しあわせ研究所との包括連携協定締結

●海外研究教育機関との連携拡充

- ◆ブハラ国立大学代表団来学
- ◆ウズベキスタン国立世界言語大学との大学間交流協定締結
- ◆タシケント国立経済大学との大学間交流協定締結

●UNWTO. TedQual(観光学教育研究プログラム国際認証)認証取得協力

●学内FD(Faculty Development)・SD(Staff Development)活動支援

- ◆学内研究支援セミナー開催
- ◆国際研修実施協力

1.4.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

●国際学会スポンサー参加

- ◆「APTA Annual Conference 2019」

●ニュースレター発行

- ◆「CTR Newsletter」(年2回発行)

●外部機関との連携促進

- ◆UNWTOとの共同プログラム企画・運営
- ◆UNWTO主催会議・地域大会への参加
- ◆「UNWTO活用検討会」参加
- ◆UNWTO. TedQualプログラム日本窓口としての活動
- ◆セミナーシリーズ「Global Trends in Sustainable Tourism」開催
- ◆文化庁「先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業」審査協力
- ◆「第3回 日本ウズベキスタン学長会議」参加

●学会・イベント参加(研究発表、招待講演、モデレーター、オブザーバー等)

●学会・イベント開催協力

- ◆講演会「Yokosuka1953」共催
- ◆国際学会「SEAMA2020」共催
- ◆「第28回ウズベキスタン日本語弁論大会」開催協力

●セミナー等の企画運営

- ◆観光教育研究セミナー:1回
- ◆CTR Seminar Series:4回
- ◆公開セミナー、シンポジウム、ワークショップ、イベント:10回
- ◆学内セミナー、ワークショップ:4回


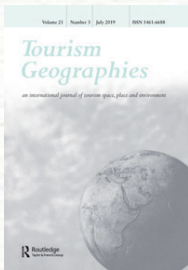
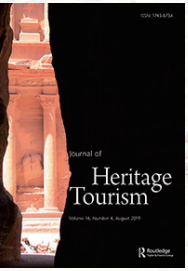


2 活動報告

2.1. 研究活動

2.1.1. 主な出版業績一覧

主な出版業績は以下の通り。なお、現学内研究員の業績詳細は、本学ウェブサイト内、研究者総覧ページ(<http://wakarid.center.wakayama-u.ac.jp/>)参照。

出版年月	タイトル[]内はジャーナル名 ※はScopus収録ジャーナル、()内はScopus CiteScore 2018	
種別	著者(CTR研究員のみ)	
2019年4月	Relationships of involvement and interdependent happiness between domestic and international Japanese masters games tourists [Annals of Leisure Research] ※(1.43)	
論文	Eiji Ito, Faculty of Tourism, Wakayama University Kei Hikoji, Faculty of Education, Wakayama University	
2019年4月	Tourism and community resilience in the Anthropocene: accentuating temporal overtourism [Journal of Sustainable Tourism] ※(4.06)	
論文	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University; School of Languages, Literatures, Cultures and Linguistics, Faculty of Arts, Monash University	
2019年4月	Overtourism and tourismphobia: A journey through four decades of tourism development, planning and local concerns [Tourism Planning & Development] ※(1.24)	
論文	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University; School of Languages, Literatures, Cultures and Linguistics, Faculty of Arts, Monash University	

出版年月	タイトル[]内はジャーナル名 ※はScopus収録ジャーナル、()内はScopus CiteScore 2018	
種別	著者(CTR研究員のみ)	
2019年5月	Gender and sustainability – exploring ways of knowing – an ecohumanities perspective [Journal of Sustainable Tourism] ※(4.06)	
論文	Kumi Kato, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2019年5月	Religious tourism in Asia: Tradition and change through case studies and narratives (edited by Shin Yasuda, Razaq Raj, and Kevin Griffin, 2018, CABI, Oxfordshire, UK, 186 pp.) [Tourism Geographies] ※(3.01)	
書評	Ricardo Nicolas Prozano, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2019年5月	Safeguarding intangible heritage: practices and politics(edited by Natsuko Akagawa and Laurajane Smith, Oxfordshire/New York: Routledge, 2019, 259 pp.) [Journal of Heritage Tourism] ※(1.44)	
書評	Ricardo Nicolas Prozano, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2019年6月	Overtourism: Excesses, discontents and measures in travel and tourism	
著書	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2019年9月	Overtourism and degrowth: a social movements perspective [Journal of Sustainable Tourism] ※(4.06)	
論文	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University	

出版年月	タイトル[]内はジャーナル名 ※はScopus収録ジャーナル、()内はScopus CiteScore 2018	
種別	著者(CTR研究員のみ)	
2019年10月	Exploring the role of language proficiency and cultural adaptation in travel risk perception: A study of Asian working holiday makers in Australia [Journal of Vacation Marketing] ※(2.68)	
論文	Hayato Nagai, Faculty of Tourism, Wakayama University	
2019年10月	サイクリングイベント参加者の参加動機と運営協力, 再参加意図, 口コミとの関連 [体育・スポーツ科学]	
論文	伊藤 央二(和歌山大学 観光学部) 山口 志郎(流通科学大学 人間社会学部)	
2019年11月	The effect of different crisis communication channels [Annals of Tourism Research] ※(4.55)	
論文	Kaede Sano, Faculty of Tourism, Wakayama University	
2019年11月	Modern day slavery and orphanage tourism	
著書	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2019年11月	Predictive power of leisure constraint-negotiation models within the leisure-time physical activity context: A partial least squares structural equation modeling approach [Journal of Leisure Research] ※(1.93)	
論文	Shintaro Kono, Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation, University of Alberta Eiji Ito, Faculty of Tourism, Wakayama University	

出版年月	タイトル[]内はジャーナル名 ※はScopus収録ジャーナル、()内はScopus CiteScore 2018	
種別	著者(CTR研究員のみ)	
2019年12月	Similarities and differences in constraints and constraint negotiation among Japanese sport tourists: A case of masters games participants [Journal of Sport & Tourism] ※(1.89)	
論文	Eiji Ito, Faculty of Tourism, Wakayama University, Shintaro Kono, Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation, University of Alberta	
2020年1月	Expanding the concept of the VFR market: Excavating 'hidden VFR travellers' [Tourism Management Perspectives] ※(3.42)	
論文	Hayato Nagai, Faculty of Tourism, Wakayama University	
2020年1月	Communicating risk to tourists: A mental models approach to identifying gaps and misperceptions [Tourism Management Perspectives] ※(3.42)	
論文	Hayato Nagai, Faculty of Tourism, Wakayama University	
2020年1月	Tourism and its discontents in the global south [Current History] ※(0.31)	
論文	Joseph M. Cheer, Center for Tourism Research, Wakayama University	
2020年1月	Emplacing non-human voices in tourism research: the role of dissensus as a qualitative method [Tourism Geographies] ※(3.01)	
論文	Abhik Chakraborty, Center for Tourism Research, Wakayama University	

出版年月	タイトル[]内はジャーナル名 ※はScopus収録ジャーナル、()内はScopus CiteScore 2018	
種別	著者(CTR研究員のみ)	
2020年1月	市民マラソンにおけるイベント満足度がディスティネーションの認知、イメージ、及びロイヤルティに与える影響：参加者視点のディスティネーションブランドエクイティの構築 [スポーツ産業学研究]	
論文	山口 志郎(流通科学大学 人間社会学部) 伊藤 央二(和歌山大学 観光学部)	
2020年1月	A generalized approach to tourist ethnocentrism (GATE): Analysis of the GenE scale for application in tourism research [Journal of Travel Research] ※(7.04)	
論文	Tatsuo Oi, Graduate School of Tourism, Wakayama University Kaede Sano, Graduate School of Tourism, Wakayama University	
2020年3月	Emerging patterns of mountain tourism in a dynamic landscape: Insights from Kamikochi Valley in Japan [Land] ※(2.15)	
論文	Abhik Chakraborty, Faculty of Tourism, Wakayama University	
2020年3月	ポスト東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツツーリズム政策 [観光学評論]	
論文	伊藤 央二(和歌山大学 観光学部)	
2020年3月	諏訪湖マラソン大会参加者のマラソン大会参加動機と観光動機に関する研究：参加者の宿泊と同伴者の有無に着目して [生涯スポーツ学研究]	
論文	伊藤 央二(和歌山大学 観光学部)	
2020年3月	大学弓道選手の心理的スキルと日本的スポーツ価値志向に関する研究 [大学体育スポーツ学研究]	
論文	伊藤 央二(和歌山大学 観光学部)	

2.1.2. 登録研究プロジェクト一覧

2.1.2.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業に採択され、CTR研究員が代表者として取り組む研究プロジェクトは以下の通り(掲載希望課題のみ)。

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究 B	Brent W. Ritchie	Protecting international tourists from harm: Developing an effective tourist hazard information system	観光学
	加藤 久美	サステナブルツーリズムによるSDGsの推進:レジリエンスを基盤として	観光学
基盤研究 C	足立 基浩	観光エリアマネジメント活動が地方の市街地の経済活動に与える効果に関する研究	観光学
	大井 達雄	空間統計学による観光市場の地域特性の把握と地理情報の高度化に関する研究	観光学
	小野 健吉	我が国の庭園観光の適切かつ持続的な推進に向けた研究	観光学
	木川 剛志	「直接経験」に基づく都市形成モデルの研究:地方都市の立地適正化計画を事例として	都市計画・建築計画
	富田 晃彦	国際連携による幼児期の天文教育の研究	科学教育
	東 悦子	移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承	観光学
	山田 良治	知識労働の発展と観光行動の高度化との相互関係に関する日英比較研究	観光学
若手研究	Abhik Chakraborty	山岳地域における環境変化と観光資源レジリエンスの包括的分析	観光学
	伊藤 央二	世界遺産の参詣道「熊野古道」を歩くことで得られる意味深い心理的経験の実証研究	観光学
若手研究B	佐野 楓	ツーリズム2.0時代のソーシャル・メディアマーケティング競争優位に関する研究	観光学
	永井 隼人	An exploratory study on minimizing travel-related risks among young Japanese travelling overseas	観光学
	山口 志郎	トレイルランニングにおけるリスクマネジメントと参加者のリスク認知に関する実証研究	スポーツ科学 観光学

2.1.2.2. CTR助成研究プロジェクト

<CTR研究支援プログラム>

CTRミッション「観光学研究の高度化を通じて健全で持続可能な社会の発展に寄与する」を踏まえ、下記の優先目標を考慮した研究プロジェクトを推進し、観光学研究の高度化・国際化を図ることを目的に、研究費助成を行う。CTR内部の競争的資金の位置づけで、CTRミッションと下記のキーワードいずれか及び、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に貢献する内容であることを求める。

■優先目標

- ①日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- ②国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

■研究推進にあたるキーワード

- ①Ethics and Responsibility
- ②Diversity and Equity
- ③Community and Environment

2019年度採択課題は以下の通り。いずれも助成期間は単年度。各課題の概要と活動報告は、CTRウェブサイトに掲載。

代表者	研究課題
伊藤 央二	感情評価理論を用いた日本人の観光行動に関する研究
加藤 久美	ウズベキスタンにおける持続可能な観光の実施の提言：持続可能な観光開発指標の活用と分析
佐野 楓	日本における外国人観光客に対する住民感情指標の検証
出口 竜也	観光のメディア化：ファンによる作品の舞台探訪を事例とし
中串 孝志	観光を含む広義の宇宙利用についての基礎的研究
八島 雄士	訪日旅行者をターゲットとするスポーツ参加の商業化によるコミュニティ開発：ゼネラルマネジャーの役割変容に着目したアクションリサーチ

本プログラムは、学部横断的なプロジェクトに加え、客員研究員の参加や、前年度の短期研究員招へい制度から展開した国際共同研究等、学内外での共同研究を進める枠組みとして定着してきている。また、前年度採択プロジェクトが、本年度の科研費採択や観光庁からの受託事業につながっており、さらなる外部資金獲得につなげるスタートアッププロジェクトの機能としても着実に効果が出始めている。

2.1.2.3. CTR客員研究員 研究プロジェクト

CTR客員研究員が取り組む研究のうち、公開希望の課題は以下の通り。各課題の概要は、CTRウェブサイトに掲載。

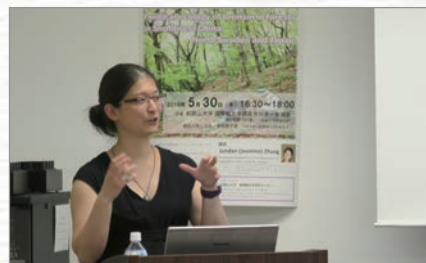
研究者	研究課題
小川 勝久	先端情報技術を用いた高野山観光デジタルテーマパークの提案
黒田 有彩	宇宙観光とタレントの関わり合い
杉山 幹夫	LocalWikiを活用した住民による地域情報の発信 - 観光情報と防災情報の相互関係の発信に関する研究
須藤 カンジ	The Eccentric Tourism Film
蘇 哲仁	マーケティングツールとしての観光映像と国際観光映像祭のこれからのかたち
曹 禎敏	企業のCSR活動を契機とした新たな地域観光の創出：「企業の森」事業に着目して
中村 仁	観光のメディア化：ファンによる作品の舞台探訪を事例として
森 清顕	日本の巡礼ツーリズムについて ～西国三十三所の形成と展開～
吉田 潔	地球における着地型観光の推進方向に関する研究

2.1.3. 短期研究員招へい制度

短期研究員招へい制度は、本学研究者との共同論文執筆、共同研究、外部資金獲得などの可能性の高い研究者を最大2週間程度招へいし、CTRを拠点としたさまざまな研究交流を通じて観光学研究的活性化、高度化を図ることを目的としている。CTR研究員の推薦に基づき、2019年度は2名の受け入れを行い、それぞれ公開セミナーや勉強会等を開催し、CTR研究員や学生との交流をもち、共同研究への展開も進んでいる。

◆Dr. Jundan (Jasmine) Zhang (Umeå University, Sweden)

5月20日(月)から31日(金)に渡って来学し、自身の研究分野をテーマとしたセミナー「Between mountains and seas: Political ecology of tourism in forests in Southwest China, North Sweden and Japan」の他、研究会「How could we be non-Western? Discourses and discussions on research positionalities and methodologies in tourism studies」を開催した。アジアの視点から研究に取り組むことについて、研究員や学生と活発な意見交換が行われた。また、本学研究員との共同編書や共同研究、学術大会の企画等、本招へいを通じて取り組みが進んでいる。



◆Dr. Aaron Tham (University of the Sunshine Coast, Australia)

11月18日(月)から29日(金)までの2週間来学し、2018年にオーストラリア・ゴールドコーストで開催されたコモンウェルスゲームズの事例から今後日本で開催されるメガスポーツイベントについて議論したセミナー「Legacy of mega-events: A case study of the Gold Coast Commonwealth Games 2018」には多くの学生が参加した。さらに、IRをテーマとした勉強会「Rolling the dice: Past, present and future of Singapore IRs」は観光学部FD活動にも位置付けられただけでなく、和歌山県庁や学生の参加もあり、活発な質疑応答が行われた。また、セミナーの他にも、研究助言や観光学部国際連携に関する意見交換も行われ、共同研究に止まらず、多岐にわたる交流が広がっている。



2.1.4. 「CTR研究集会」開催

11月15日(金)に「2019年度CTR研究集会」を開催し、3年目となる本集会では、上述CTR研究支援プログラムの中間報告及び、CTR専任研究員2による研究活動紹介を行った。一般にも公開し、英語で実施したが、学内外からの学生の参加を得た他、研究支援プログラムからは客員研究員も英語での発表に挑戦し、活発な意見交換は各発表時だけでなく休憩時間中にも見られるなど、CTRを軸に研究文化が広がっている。全てのプロジェクトが実践的で、サステナビリティを重視している点も評価できると、総括した本学特別主幹教授のRichard Sharpley CTR副センター長からは、今後の継続的な開催へも激励があった。



2.1.5. 書籍出版プロジェクト

国際的研究拠点形成のための基盤づくり、また本学における観光学研究成果を広く国外にも紹介することを目的とした組織的な取り組みとして、CTR研究員を中心に執筆、編集を行い、2018年1月に刊行された国際的学術誌 Tourism Planning & Development 特集号Vol 15, Issue 1, Tourism development in Japan, Issues and Challenges – a focus on regions and communities を土台とする書籍企画「Tourism development in Japan, Issues and Challenges – a focus on regions and communities(仮題)が、本学特別主幹教授のRichard Sharpley CTR副センター長による協力の下、出版社Routledgeに提案、採択された。特集号執筆者10名に、8名の新たな執筆者を加え(CTR研究員計13名)、執筆及び編集作業を進めている(2020年度中の刊行予定)。

2.2. 研究・教育サポート

2.2.1. 研究相談会開催

観光学研究科(博士前・後期課程)の学生向けに、本学特別主幹教授による国際的視野に立った観光学研究指導の研究相談会(リサーチコンサルテーション)を開催した。世界の観光研究の最先端で活躍する教授陣から、各自の研究に対するアドバイスを獲得する機会とした。また、CTR研究員も特別主幹教授による研究会の場や、個別面談で議論を交えながら研究への助言を得た。

2.2.2. イベント開催支援

- 「The 2nd International Conference of Critical Tourism Studies - Asia Pacific」共催
CTRが共催し、The 2nd Critical Tourism Studies-Asia Pacific Conferenceが2020年2月17日から3日間の日程で、和歌山大学にて開催された。新型コロナウイルス「COVID-19」の影響で世界的に移動の制限や自粛が広がり困難な情勢ではあったが、参加者は30の国と地域から170人を数え、国際学会としては大学史上最大の規模となったばかりでなく、本学そしてCTRがアジア太平洋地域における観光研究の重要な拠点であると世界に存在感を示すマイルストーンとなった。多くのCTR研究員や学生が研究発表を行った他、本学の学生ボランティアも運営に協力した。また、CTRセンター長の加藤久美教授も講演を行った。



●「第2回日本国際観光映像祭」開催

CTR研究員の木川剛志准教授が代表を務め、CTRが実行委員会の構成員である「日本国際観光映像祭」が昨年度に引き続き大阪市内で開催された。観光映像の質向上や観光交流促進のために国内外の観光映像を集めて表彰する他、同研究員の尾久土正己教授が取り組む次世代の全天周ドーム映像に関する展示やCTR客員研究員らも登壇した多様なパネルセッション等を通して、映像による観光プロモーションのあり方について考える機会となった。受賞作品やプログラム詳細はウェブサイト(<http://jwtf.world/>)より閲覧可。なお、この映像祭は、UNWTOも認定している国際的な観光映像祭のネットワークであるCIFFT(International Committee of Tourism Film Festivals)への加盟を目指しており、2019年度には、その候補会員としての加入が認められ、今回は東アジア初となるCIFFT加盟映像祭としての開催となった。



2.2.3. 観光学部授業科目の開講支援

●特別主幹教授及びCTR専任研究員による授業科目開講支援

本学特別主幹教授4名が、観光学部及び観光学研究科の一部科目(観光学部科目に関してはグローバル・プログラム(GP)対象科目)の開講を支援した。主に、CTR研究員との共同担当として集中講義の形式をとった。2019年度開講科目は下記の通り。

●担当科目一覧 観光学部

科目名	担当者
Critical Issues in Tourism A	Thomas Hinch
Critical Issues in Tourism B	Brent W. Ritchie
Sustainability and Management	Graham Miller
Global Learning Advanced (Dark Tourism Development in Japan)	Richard Sharpley

観光学研究科

科目名	担当者
Leisure and Sport Tourism	Thomas Hinch
Sustainability and Management	Graham Miller
Tourism Development and Community	Richard Sharpley
Tourism Risk Management	Brent W. Ritchie



また、CTRスタッフも観光学部の「観光キャリア・デザイン論」及び「観光経営特殊講義」の授業でゲスト講義を行った。

2.2.4. 特別主幹教授の教育活動への参加

●観光学部「Tea Time for GP」及び「Tourism Café」参加

2019年度より、教職員・学生間での情報交換等を目的に定期開催している観光学部観光実践教育サポートオフィスのオフィスアワー「Tourism Cafe」及び、GP受講学生を主な対象に、特に英語での学びや国際的な学びに関する情報交換の場として同オフィスが定期開催している「Tea Time for GP」に特別主幹教授3名も特別ゲストとして参加した。来学期間に合わせて、Thomas Hinch教授、Graham Miller教授、Richard Sharpley教授が、それぞれ自身の経歴や観光研究、教職に対する考え方、日本と自国の大学の違い等を紹介しながら、学生への助言が多数行われた。

●観光学部宿泊研修参加

毎年開催される観光学部新入生宿泊研修にBrent W. Ritchie特別主幹教授が参加した。2019年度は、6月1日(土)から2日(日)に実施され、例年同様、南紀白浜等和歌山県南部地域の主要な観光地を訪問した。

2.2.5. 外部機関連携活動の支援・促進

2.2.5.1. 国際機関との連携

●UNWTO 学生ボランティアグループの活動支援

UNWTOの活動を普及する取り組みを、ボランティアとして観光学部や経済学部の学生ら約30名が主体的に進めており、CTRがその活動を支援している。主な取り組みは、UNWTO発行資料の翻訳協力と、同機関が提唱する世界観光倫理憲章(Global Code of Ethics for Tourism / GCET) を次世代に伝えるためのコンテンツ開発である。

●翻訳協力

ボランティアグループの学生が、過去1年間の世界観光統計のダイジェストである「UNWTO Tourism Highlights 2019」の日本語版の制作に協力した。UNWTOが作成した英語オリジナル版の翻訳やデータの校正などを行い、完成した冊子は2020年2月に奈良県所在UNWTO駐日事務所から刊行された。

同機関ウェブサイト

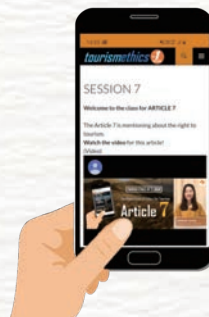
(<https://unwto-ap.org/document/tourism-highlights/>)からPDF版のダウンロードも可能。



●観光倫理Eラーニング作成

同グループでは、観光が持続可能な開発目標(SDGs)に貢献するための基盤として、GCETのさらなる理解促進が必要だと考えており、GCETの普及促進に貢献するため、世界中で観光教育のツールとして利用してもらえるようウェブコンテンツの制作に2017年から取り組んでいる。全10条からなる条文を理解しやすい平易な英語で説明し、観光倫理について考えるきっかけづくりを目的としたEラーニングプログラム「Tourism Ethics in ONE Hour」のプロトタイプが2019年9月に完成し、インターネット上で公開した。下記URLもしくはQRコードから無料で閲覧可能。

<https://learning.tourismethics.org>



●UNWTO国際会議への参加

12月11日(水)から13日(金)に京都市内で開催されたUNWTO駐日事務所主催シンポジウム「都市観光の予測を超える成長への対応～観光地をいかにマネジメントするか?」への本学学生ボランティア派遣に協力した。全学公募の結果、観光学部学部生4名が受け付け対応等、会場運営の支援にあたり、主催者や参加者からも積極的な活動に評価をいただいた。開演後は、会場内でシンポジウムを聴講した。



●「ASEAN+3ツーリズムユースサミット2019参加支援

「ASEAN Plus Three Tourism Youth Summit」は2014年から毎年開催されており、8月25日(日)から31日(土)にかけてタイのチェンマイで行われた。CTRが情報仲介を行い、本学観光学部4回生小滝侑さんが、観光庁による公募で日本代表として選出され、各国からの学生らとともに参加した。2019年のテーマは、「世界観光の日」の同年のテーマに関連し、「ASEAN Plus Three Youth 2019 for Innovation Organic and CBT Tourism Development」で、デジタル技術で観光革新を促進することに焦点を当て、観光地や観光事業所等の視察やアクティビティ、ディスカッションを通して、参加者は学びと交流を深めた。



2.2.5.2. 国内研究教育機関との連携

●武蔵野大学しあわせ研究所との包括連携協定締結

武蔵野大学しあわせ研究所と当センター間で、持続可能な開発目標(SDGs)等に基づき、観光や宗教を含む多様な視点から、健全で持続可能な社会づくりへの取り組みや、「世界の幸せ」を具現化する研究・教育活動において連携することを目的に、「武蔵野大学しあわせ研究所と和歌山大学国際観光学研究センターとの包括連携に関する協定書」を9月1日(日)に締結した。この協定をもとに、研究者や学生の交流、共同研究や共同事業の企画等を進めていく。

2.2.5.3. 海外研究教育機関との提携

●ウズベキスタンの研究教育機関との連携拡充

日本とウズベキスタンの交流発展を目的に4年毎に開催され、第3回目を迎えた日本ウズベキスタン学長会議が、7月8日(月)と9日(火)にウズベキスタンのタシケントで行われ、観光学教育・研究分野の代表校として本学の伊東千尋学長が参加し、「異文化交流促進に向けた人材育成・研究」をテーマとした分科会のモデレーターを務めた。ウズベキスタンでは現在、観光産業の急拡大に伴い、観光研究・教育への関心が高まっているため、2017年よりウズベキスタンの研究教育機関との連携を進めているCTRが本参加を支援した。これをきっかけとして、各大学との連携協議が進み、2月18日(火)にはウズベキスタン国立世界言語大学と、2月19日(水)にはタシケント国立経済大学との間にそれぞれ大学間交流協定締結の調印式が執り行われた。さらに複数の大学との協定締結に向けて準備を進めており、成長著しいウズベキスタンとの様々な連携活動の発展が期待される。



2.2.6. UNWTO. TedQual認証取得支援

CTRの支援の下、2020年3月、本学観光学部及び観光学研究科博士前期課程がUNWTOの関連組織であるUNWTO Academyが実施する認証制度「UNWTO. TedQual(Tourism Education Quality) (以下TedQual)」の認証を取得した。観光学部は2017年の初取得から3年間の認証期間満期を迎え、今回の更新申請が承認され、観光学研究科は、日本で初めてとなる大学院での認証取得となった。また、CTRでは、国内でのTedQual普及促進にも努めており、UNWTO Academyの同意の下、日本におけるTedQual制度申請窓口として観光教育機関への認証取得支援を行っている。



なお、UNWTO Academyは、UNWTOの加盟国に向け、その理念である観光分野の健全な発展の実現に貢献する人材育成を支援する独立組織で、観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とするTedQual認証制度を設けている。認証取得の価値は、世界水準の機関としての評価を受けるだけでなく、観光教育、研究のグローバルネットワーク(交換プログラム、共同研究、国際学会等)への参加やUNWTO Academyとの共同プログラムの実現が可能となることにある。2018年11月には同機関と本学の間で同意書を締結し、2019年5月には、シンポジウム「国際的視野で考える日本・関西インバウンドの次なる展開～観光地経営と DMOs - the UNWTO.QUEST Program～」を共同で開催した(32ページ参照)。当センター自体は認証の対象とはならないが、一連の活動を通じて国際舞台での本学のプレゼンスを高め、日本そしてアジア太平洋地域における観光学研究の牽引機関として発展していくことが期待される。

2.2.7. 学内FD・SD活動支援

●研究支援セミナー開催

研究力の全体的な向上を図るため、広く学内に向けた研究ノウハウに関するセミナーを企画運営した。研究環境整備の一環として統計分析ソフトIBM SPSSの貸し出しを開始したことを受け、10月10日(木)にワークショップを開催し、スマート・アナリティクス株式会社の畠慎一郎氏を講師に、デモンストレーションや体験操作の講習を行った。また、本学特別主幹教授であり、観光学の学術誌「Tourism Planning & Development」の編集主幹であるRichard Sharpley教授による勉強会「Getting published: An editor's perspective」を11月14日(木)に開催した。学術誌投稿及び査読の心得について、参加者も積極的に知見を共有した。いずれもCTR研究員だけでなく、学生を含めた多くの研究者が参加した。



●国際研修実施協力

国際交流研修として、大学間交流協定を締結しているウズベキスタンのブハラ国立大学等に学務課の事務職員1名を派遣する協力をした。現地の教職員や関連団体の職員に聞き取り及び意見交換を行った他、タシケントで開催された「第3回日本ウズベキスタン学長会議(29ページ参照)」の視察も行った。その他、観光学部が海外研修プログラム(GIP)で連携しているカナダのアルバータ大学等でのFD研修企画調査のため、観光学部教員を派遣した。各大学の運営体制の視察と聞き取りを行い、研修企画の協議を進めた。

2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

2.3.1. 学会スポンサー参加

7月1日(月)から4日(木)に渡りベトナムのダナンにて、Asia Pacific Tourism Association (APTA) の第25回大会が開催された。APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の1つであり、今大会にはアジアを中心に25の国・地域から235名が参加し、日本からは34名もの参加があった。本学からも伊藤央二CTR副センター長(観光学部准教授)、永井隼人CTR研究員(観光学部講師)、Mina Shafiek氏(観光学研究科博士後期課程2年)が参加し、研究発表を行った。また、本学では5年続けてスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、大会期間中はスポンサー紹介パネルが会場に設置された他、学会プログラムに広告が掲載された。



2.3.2. ニュースレター発行

2018年度より発行を始めた「CTR Newsletter」が引き続き9月、3月に発行された。CTRが取り組む研究や教育支援活動、国内外の観光関連研究情報を紹介している。CTRウェブサイト (<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/newsletter.html>) からPDFファイルのダウンロードも可能。



2.3.3. 外部機関との連携促進

●UNWTOとの共同プログラム

●シンポジウム「国際的視野で考える日本・関西インバウンドの次なる展開 ～観光地経営とDMOs—the UNWTO. QUEST Program—」

日本で初めてとなる観光地経営組織(Destination Management Organization/DMO)を対象としたUNWTOの国際認証制度であるUNWTO. QUESTに関する国際シンポジウムを5月16日(木)に大阪で、UNWTO駐日事務所及びUNWTO Academyと共催した。UNWTOの担当者や国内外のDMO経営者を講師に招き、UNWTOにおけるDMOの意味やUNWTO. QUEST認証の解説の他、海外でのDMO活動成功事例等の紹介、国内事例や実際の経験からの今後の展望及び日本におけるDMOのあり方について提起が行われた。CTRでは、国内外のDMO経営の質向上を目指すUNWTOに賛同し、本シンポジウム後援の観光庁や2019年3月に包括協定を締結した一般財団法人関西観光本部との連携を図りながら、今後もUNWTO. QUESTの普及促進に協力していく。



●「第2回次世代観光リーダー育成に向けたワークショップワークショップ ～ルールルツーリズムにおける持続可能な開発に向けたアクション」

2020年2月26日(水)から28日(金)にかけて、UNWTO駐日事務所および独立行政法人国際協力機構(JICA)と本学が共催し、「Sustainable Development Action in Rural Tourism」をテーマに、留学生ら参加者はシンポジウム聴講やフィールドワーク、ワークショップを行った。初日に本学で開催されたシンポジウムは一般にも公開され、植田淳子CTR研究員も講演を行った。2日目は熊野古道や南部梅林等を視察し、最終日はCTR研究員らによる事例発表を聴講した後、2日間をまとめるグループワークと発表会を本学にて実施した。



●UNWTO各会議・地域大会参加

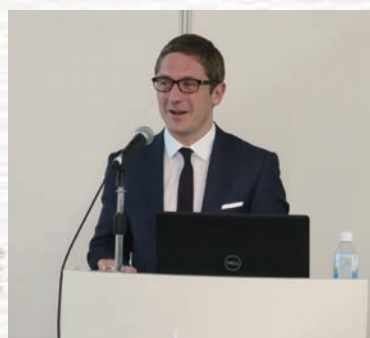
●「The 13th UNWTO/PATA Forum on Tourism Trends and Outlook」参加

10月17日(木)から19日(土)にかけて中国桂林にて開催された国際会議、「The 13th UNWTO/PATA Forum on Tourism Trends and Outlook」で、CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授が「Tourism in a time of rapid growth: Overtourism policy, planning and capacity management」というタイトルで招待講演を行った。同会議は、UNWTO、PATA(太平洋アジア観光協会)の主催で毎年開催されており、本年の会議テーマは「Beyond gateways: Dispersal policies, capacity management, and rural tourism」で、データ活用による観光地経営や持続可能な観光開発等に関連したセッションが組まれた。



●セミナーシリーズ「Global Trends in Sustainable Tourism」

Tourism & Sustainability研究ユニットが中心となり、観光庁との連携で、3回にわたるセミナーを開催した。第1回目は、9月20日(金)に観光庁で、同庁職員を対象にニュージーランド・オタゴ大学のJames Higham教授とCTR専任研究員Joseph Cheer特任教授が講演を行った。それぞれ「低炭素社会のモビリティ」、「オーバーツーリズム:世界のトレンド」をテーマに各国の事例等の紹介や提案が行われ、サステナブルツーリズムに関する議論が行われた。続く第2回目は、大阪で開催された「ツーリズムEXPOジャパン2019ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー」にて、CTR副センター長のGraham Miller本学特別主幹教授が「Driving Sustainable Tourism through Data」をタイトルに、持続可能な観光指標開発について、ヨーロッパの例を元に、観光におけるサステナビリティ事業の方向性等について解説した。11月18日(金)に観光庁で開催された第3回目「Future of Tourism」には、同じくCTR副センター長のRichard Sharpley本学特別主幹教授が登壇し、世界的に課題となっているオーバーツーリズムや質的成長について情報提供があり、その施策について活発な議論が行われた。



2.3.4. 学会、イベント参加等

CTRスタッフが出席したイベントは以下の通り。

日程	イベント名	主催
5/22～24	2019 APacCHRIE & EuroCHRIE Joint Conference (Hong Kong)	The Hong Kong Polytechnic University
5/24	持続可能な観光による地方創生国際シンポジウム(北海道)	観光庁; 倶知安町; G20観光大臣会合実行委員会
6/3～5	The 31st CAP-CSA, 57th CSA, 53rd CAP and UNWTO Regional Conference (Thimphu, Bhutan)	UNWTO; The Kingdom of Bhutan
7/1～4	The 25th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference (Da Nang, Vietnam)	APTA (Asia Pacific Tourism Association)
7/8～9	第3回日本ウズベキスタン学長会議 (Tashkent, Uzbekistan)	名古屋大学
7/18	先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業審査委員会(東京)	文化庁
7/19	第12回UNWTO活用検討会(東京)	観光庁
9/6	INBOUND DATA SUMMIT (東京)	Vpon JAPAN株式会社
9/9～13	UNWTO General Assembly - Twenty-third session (Saint Petersburg, Russia)	UNWTO; the Russian Federation
10/17～18	国際ワークショップ「IFITTtalk」(京都)	京都大学経営管理大学院
10/17～19	The 13th UNWTO/PATA Forum on Tourism Trends and Outlook (Guilin, China)	UNWTO、太平洋アジア観光協会(PATA)
10/22～23	2019 Global INSTO Meeting (Madrid, Spain)	UNWTO

日程	イベント名	主催
10/21~25	ツーリズムEXPOジャパン2019 (大阪)	公益社団法人日本観光振興協会; 一般社団法人日本旅行業協会; 独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)
10/28	米国ー日本ホスピタリティマネジメント サミット(大阪)	在日米国大使館商務部; 駐大阪・神戸米国総領事館; 在日米国商工会議所
10/29	第29回旅行動向シンポジウム (東京)	公益財団法人日本交通公社
11/11	さくらサイエンスプラン 5周年シンポジウム(東京)	科学技術振興機構
11/18~20	International Network of Sustainable Tourism Observatories (INSTO) Asia Workshop (Siam Reap, Cambodia)	UNWTO
11/20	第13回 UNWTO活用検討会(東京)	観光庁
12/11	シンポジウム「都市観光の予測を超える 成長に対する対応 ～観光地をいかにマネジメントするか?」 (京都)	UNWTO駐日事務所; 一般社団法人アジア太平洋観光交流センター(APTEC)
12/12~13	The 4th UNWTO/UNESCO World Conference on Tourism and Culture: Investing in future generations (京都)	UNWTO; UNESCO; 観光庁; 文化庁; 京都府; 京都市
2/17~19	The 2nd International Conference of Critical Tourism Studies – Asia Pacific (和歌山大学)	Critical Tourism Studies -Asia Pacific
2/26	シンポジウム:ルーラルツーリズムにおける 持続可能な開発にむけたアクション (和歌山大学)	UNWTO駐日事務所; 国立 大学法人和歌山大学; 国際協 力機構(JICA)
2/27~28	第2回 日本国際観光映像祭(大阪)	日本国際観光映像祭実行 委員会

2.3.5. セミナー等の企画・運営

- 観光教育研究セミナー(全1回)
- CTR Seminar Series(全4回)
- 公開セミナー、ワークショップ、イベント(全10回)
- 学内セミナー、ワークショップ(全4回)

開催日	イベント名/講師等/ポスター	
4/11(水)	<p>公開セミナー 「観光のサステナビリティにおけるクリティカルな考察 ～自然遺産、ビジターマネジメント、オーバーツーリズムの視点から Critical reflections on tourism sustainability from the angles of natural heritage, visitor management, and overtourism」</p> <hr/> <p>スピーカー： Brent Lovelock (Professor, Otago University) Anna Carr (Senior Lecturer, Otago University) 加藤 久美 (和歌山大学CTRセンター長/観光学部 教授) 尾鷲 那月、小池 夏海、中村 実瑠 (和歌山大学 観光学部 3 回生) コーディネーター： Adam Doering (和歌山大学 観光学部 准教授) Abhik Chakraborty (和歌山大学 観光学部 講師)</p>	
5/11(金)	<p>シンポジウム 「国際的視野で考える 日本・関西インバウンドの次なる展開 ～観光地経営とDMOs – the UNWTO. QUEST Program～</p> <hr/> <p>講師： Patricia Carmona (Specialist, UNWTO) Sònia Figuera (Programmes Manager, UNWTO Academy) 多田 稔子 (田辺市熊野ツーリズムビューロー会長) 山田 佳一郎 (JTIC.SWISS代表)</p>	 <p>国際的視野で考える 日本・関西インバウンドの次なる展開 ～観光地経営とDMOs – the UNWTO. QUEST Program～</p> <p>2019年5月16日(木) 14:00～17:10</p> <p>会場 AP 大塚駅前ビル1丁目 APホールB 〒590-0841 大阪府東淀川区大塚1-1-1</p> <p>定員 100名 参加費 無料 申込 不要</p>

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
5/17(金)	<p>CTR Seminar Series 2019 Vol.1 「Research, lifelong sport, and travel: Exploring pathways to sustainability」</p> <hr/> <p>講師： Tom Hinch (和歌山大学 特別主幹教授、Professor, Faculty of Kinesiology, Sports and Recreation, University of Alberta)</p>	
5/23(金)	<p>Workshop 「Masterclass on tourism methodologies: How could we be non-Western? Discourses and discussions on research positionalities and methodologies in tourism studies」</p> <hr/> <p>講師： Jundan (Jasmin) Zhang (Postdoctoral Researcher at the Department of Geography, Umeå University, Sweden)</p>	
5/30(木)	<p>CTR Seminar Series 2019 Vol.2 「Between mountains and seas: Political ecology of tourism in forests in Southwest China, North Sweden and Japan」</p> <hr/> <p>講師： Jundan (Jasmin) Zhang (Postdoctoral Researcher at the Department of Geography, Umeå University, Sweden)</p>	
6/5(木)	<p>CTR Seminar Series 2019 Vol.3 「`Overtourism?` Perspectives and a research agenda」</p> <hr/> <p>講師： Brent W. Ritchie (和歌山大学 特別主幹教授、Professor, School of Business, Faculty of Business, Economics and Law, the University of Queensland)</p>	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
6/12(水)	<p>公開セミナー 「Measuring local destinations' tourism performance and attractiveness: The case of Lombardy, Italy」</p> <hr/> <p>講師： Niccolò Comerio (CTR客員一般研究員、Ph.D. student in the School of Economics and Management at the LIUC – Catteneo University)</p>	
9/17(火)～ 18(水)	<p>CTR Sustainability Research Unit Seminar (Master class) 「Climate change and tourism」</p> <hr/> <p>講師： James Higham (Professor, Otago University)</p>	
9/19(木)	<p>CTR勉強会 (FD研修) 「Sustainability & Tourism – major research trends: Journal of Sustainable Tourismを中心とする観光とサステナビリティ～に関するメジャーなトレンド」</p> <hr/> <p>講師： James Higham (Professor, Otago University)</p>	
9/22(日)	<p>観光教育研究セミナー2019 Vol.1 in 東京 「スポーツツーリズム4 ～メガイベントが日本社会を変える～</p> <hr/> <p>スピーカー： James Higham (ニュージーランド・オタゴ大学観光学部教授) 奥本英樹 (福島大学経済経営学類教授) 水野英莉 (流通科学大学人間社会学部准教授) モデレーター： アダム・ドーリング (和歌山大学観光学部准教授)</p>	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
9/29(日)	<p>CTR Space & Mobilityユニットシンポジウム in 大阪 「観光からみた宇宙4」</p> <hr/> <p>スピーカー： 稲波紀明 (株式会社船井総合研究所シニア 経営コンサルタント) 中串孝志 (和歌山大学観光学部准教授) 嶺重慎 (京都大学大学院理学研究科教授) 秋山演亮 (和歌山大学クロスカル教育機構教授) 鷺坂奏絵 (和歌山大学大学院教育学研究科修士課程2年) モデレーター： 尾久土正己 (和歌山大学観光学部長、教授)</p>	
10/10(水)	<p>IBM SPSS Statistics ワークショップ <第1部> SPSSスタートワークショップ <第2部> SPSSハンズオンセミナー</p> <hr/> <p>島 慎一郎 (スマート・アナリティクス株式会社代表取締役)</p>	
10/24(木)	<p>公開セミナー 「持続可能な観光指標 －観光産業における導入の利益と課題」 Implementing sustainable tourism indicators – Benefits and challenges for the private sector</p> <hr/> <p>講師： Graham Miller (和歌山大学 特別主幹教授、 Exective Dean, Prfessor, Faculty of Arts nd Social Sciences / Chair in Sustainability in Business, University of Surrey)</p>	
11/14(木)	<p>CTR勉強会 「Getting published: An editor's perspective」</p> <hr/> <p>講師： Richard Sharpley (和歌山大学 特別主幹教授、 Professor, Lancashire School of Business and Enterprise, University of Central Lancashire)</p>	

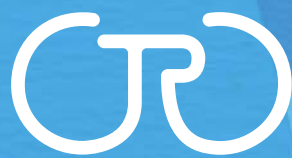
開催日	イベント名／講師等／ポスター	
11/19(火)	<p>CTR Seminar Series 2019 Vol.4 「Legacy of mega-events: A case study of the Gold Coast Commonwealth Games 2018」</p> <hr/> <p>講師： Aaron Tham (Lecturer and Program coordinator of the Tourism, Leisure and Events Management major USC Business School, University of the Sunshine Coast)</p>	
11/21(木)	<p>CTR勉強会 「Rolling the dice: Past, present and future of Singapore IRs」</p> <hr/> <p>講師： Aaron Tham (Lecturer and Program coordinator of the Tourism, Leisure and Events Management major USC Business School, University of the Sunshine Coast)</p>	
2/26(水)	<p>シンポジウム 「ルールツーリズムにおける持続可能な 開発にむけたアクション」</p> <hr/> <p>スピーカー： アルシンダ・トラウエン (国連世界観光機関駐日事務所 国際課長) 児玉 顕彦 (国際協力機構(JICA)産業開発・公共政策部民間 セクターグループ課長補佐) 亀山 秀一(日本政府観光局(JNTO) 理事長代理) 植田 淳子(和歌山大学食農総合研究所 特任助教) 柏木 満(農業法人株式会社秋津野 代表取締役専務)</p>	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
2/27(水)～ 28(金)	<p>「第2回 次世代観光リーダー育成に向けたワークショップ」</p>	 <p>Future Tourism Leaders Workshop Action for rural sustainable tourism 2/26(水)～28(金) 本学は、世界観光機関(UNWTO)と共同で、 東アジア地域観光リーダー育成に向けたワークショップを開催します。 ワークショップは、観光地と観光客の両者からなる 観光産業の持続可能な発展に貢献する観光リーダー 育成を目指すことを目的としています。講師は、 観光地、観光客、観光事業者の各分野から、 観光地と観光客の両者からなる観光産業の持続可能な 発展に貢献する観光リーダー育成を目指すことを目的として 開催します。参加費は無料です。 UNWTO JICA SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p>
2/27(水)～ 28(金)	<p>「第2回日本国際観光映像祭」</p> <p>スピーカー： Alexander V. Kammel (CIFFT Director) Hugo Marcos (CIFFT General Secretariat) Tsuyoshi Kigawa (JWTFF Director) 野村佳子(摂南大学) 中野裕之(映画監督) 相原正明(写真家) 松崎まこと(映画活動家／放送作家) 陳内裕樹(内閣府クールジャパン地域プロデューサー ／観光庁アドバイザーボードメンバー) 田中光敏(映画監督) 宮田耕輔(雑誌編集者) 小笠原順子(竹8シネマプロジェクト) Francisco Dias (ART&TUR Director) Santi Valdepérez (terres Director) 加嶋章博(摂南大学)</p>	 <p>Japan International Tourism Video Festival 2/27(水)～28(金) 2/28(金)～29(土)</p>
3/3(火)	<p>公開セミナー 「Enduring legacies: War heritage and tourism in Asia and the Pacific」</p> <p>講師： Keir Reeves (Professor, Chair of History, Federation University Australia)</p>	 <p>Center for Tourism Research 「Enduring Legacies: War Heritage and Tourism in Asia and the Pacific」 3月3日(火) 13:30～15:00 講師 鶴岡大学 准教授 長瀬 健一 CTR 研究交流室 (2号ホールA) 鶴岡大学本館 講師 Prof. Keir Reeves (Chair of History, Federation University Australia)</p>

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター
〒640-8510 和歌山市栄谷930
電話 073-457-7025
URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2020年5月



Center for Tourism Research

2019年度 年次報告書
和歌山大学 国際観光学研究センター